

新聞で深い学びを

全国大会 宇都宮で開幕 県内から13人

教育現場での新聞活用を推進する第24回NIE全国大会が1日、宇都宮市で2日間の日程で始まった。「深い対話を育むNIE」をスローガンに教育関係者ら約千人が参加。2020年度からの新学習指導要領実施を踏まえ、子どもたちの主体的で深い学びの実現に向けて、新聞が果たす役割などに理解を深めた。福井県からは、県NIE推



進協議会長の松友一雄・福井大教授やNIE実践指定校の教員ら13人が参加した。開会式で日本新聞協会の山口寿一

「新聞で育む深い対話」をテーマにしたパネル討論＝1日、宇都宮市文化会館



会長は「新聞は真に必要な記事を選り抜いて載せている。対話で深い学びの有効な教材になる」と述べた。続いて、NIEの先達ときる教育者大村はまさんにつ

いて、作家の荻谷夏子さん(大村はま記念国語教育の会事務局長)が基調講演した。大村さんは戦後の混乱期から新聞を活用。言葉の力を伸ばす教育に力を入れ、「一人前の言語生活者」を社会に送り出してきたという。古新聞で100人100通りの教材を作るなどの実践を紹介し「社会とつながる本物の言葉が新聞にはあり、考えを促すさまざまな問いが子どもを引き付けた」と語った。

パネル討論では、栃木県立矢板東高の吹上二海さんが「新聞には文章や写真があっ引き付けられる。興味がある。最終日は6校の公開授業、10校の実践発表などが行われる。」(山口晶水)